

横浜みどりアップ計画市民推進会議 第52回広報・見える化部会会議録	
日時	令和4年11月25日（金）10時00分～12時00分
開催場所	市庁舎18階共用会議室みなと18
出席者	奥井委員、高田部会長、国吉委員、高橋委員、村松委員（五十音順）
欠席者	望月委員
開催形態	公開（傍聴0人）
議題	1 YokohamaみどりアップAction 8号原稿案について 2 2023年度Yokohama みどりアップAction について 3 その他
議事	<p>（事務局） ただ今から、市民推進会議第52回の広報・見える化部会を開催いたします。</p> <p>まず、本日の会議について報告します。本会議は、要綱の第5条第2項により半数以上の出席ということが成立条件になりますが、本日、出席されている委員の方は、5名ということで会議が成立することを報告させていただきます。</p> <p>また、本会議ですが、第8条により、公開となっており、会議室内に傍聴席、記者席を設けております。また、本日のこの会議録につきましても公開とさせていただきます。会議録は委員の皆さまに事前にご確認をいただきたいと思っております。なお、会議録には個々の発言者の氏名を記載することとしておりますのでご了承いただきたいと思っております。さらに、本会議中において写真撮影を行い、ホームページおよび広報誌へも掲載させていただくことも併せてご承願いたします。</p> <p>事務局からは以上になります。それでは、今後の進行につきましては高田部会長にお願いします。高田部会長、よろしくお願いたします。</p> <p>（高田部会長） 新型コロナウイルス感染症第8波で、私の周りでも罹患した方が増えてきています。状況もまだ心配ですが、今日も皆様と対面で会えてよかったと思っております。本日はActionの検討が中心になります。ぜひ、忌憚のない意見をよろしくお願いたします。</p> <p>（一同） お願いします。</p> <p>（高田部会長） それでは、次第の1番に移りたいと思っております。YokohamaみどりアップActionの8号の原稿案について事務局から、ご説明をよろしくお願いたします。</p> <p>（事務局説明）</p> <p>（高田部会長） 最初のラフ案に沿って原稿を書き出したのですが、「ストーリーとしてどうなのか、書きにくいかな」という面もあり、奥井さんと「とりあえず取材した状況等から」という</p>

ことになりました。どのようにまとめていこうかということで、その後、村松さんや皆さんから意見をいただきまして、私たちが描いているゴールまで導いていく構成を基本にしていくほうがいいのではないかと思います。

見開き右ページは「大学生限定の森づくりボランティア講座」としてもいいかもしれません。

原稿案ができて大分わかかりやすくなったとは思いますが。表題の「森を感じる」というところから、その後森づくりの講座と大学生限定の講座につながっていくという感じですか。

「森を守るには市民の力が必要です」というところから、横浜市にどういう仕組みがあり、どのような講座があって、どのように参加していくのか紹介があると良いと思います。実際に参加してみたい人が参加しやすくなっていけばいいのかなと思います。皆さんの意見を出してもらいながらまとめていきたいと思います。

(村松委員) 取材して書かれた文章が入るのはとても生き生きしているので入れた方がいいと思います。

この構成だとパッと読んだときに、ボランティア入門講座が座学で、森づくり塾はフィールドワークであるように読んでしまわないか心配です。森づくり塾ではまず座学があり、それからフィールドワークがあり、道具の使い方がありました。入門講座も森づくり塾も三部構成で、ほぼ同じ内容です。私たちが入門講座を取材したときは講義だったので、講義について書きました。森づくりはフィールドワークについて書きました。前段に「同じようなコースの講座がありました」と書き、詳しく紹介しないと、大学生がフィールドワークだけをしたような感じがするのではないかと思います。

例えば、入門講座の3行目で「10月上旬に交流センターで開催された第1回の講義では」とすれば、「第1回が講義で、その後があるのだな」と分かります。右側の1行目に「大学生を対象としたフィールドワークの会では」として、大学生を対象としたところも入門講座と同じような内容で行われたことを付け加えたらと思います。対象が違うだけで、両方とも同じ内容をやっていることが分かればいいです。

その右下の表はとてもわかりやすくていいと思いますが、この表と入門講座、森づくり塾との関係が全然分かりません。

(高田部会長) 「色々な講座がある」ことは分かりましたが、どのように始めたらいいいのか、どこが入り口なのか、入り口があるのかないのか、ただ受けていけばいいのかということです。ボランティアをやりたいときに何から始めるかが明確に分かるといいです。

(村松委員) 「ボランティアとは」のところに、「こうやって登録してこうなる」というのはいいと思います。右側の講座の表で、「ベーシック」というのが入門講座でしょうか。左側の下に、一般の人が登録してどの講座を受けるのが良いのか入るといいなと思います。

	<p>(高田部会長) そうですね。もう少し説明があっはじめて、この講座がどこに位置付けられているかが分かってくるのではないかと思います。始めようと思ったときにどこから入ればいいのか、そこに何があるか、プロセス的なところが明確になるといいです。</p> <p>(高橋委員) 「まずはここから『森づくりボランティア入門講座』とタイトルがあるので、「これが最初なんだな」と気づくと思います。ただ、講座が三日間に分かれているので、構成上分かりにくいです。 写真の解説は、「横浜市の森づくり塾の様子」というのではなく、「フィールドワークでの活動の様子」とか、「森づくり体験の様子」としたほうがいいです。入門講座のところは最初の「森づくりボランティア制度を知る」とか、「森づくりボランティアの座学」というような言葉にするといいです。写真の説明が「森づくり塾」だけだと誤解を生んでしまうかもしれません。</p> <p>(高田部会長) 私たちが取材したのは、森づくりボランティア入門講座でした。回数が1、2、3回とありましたが、その3回はどれから受けてもいいことになっていましたか。</p> <p>(高橋委員) 1から順番に受けることになります。</p> <p>(高田部会長) 写真に矢印を入れて、「3回でこのように進んでいきます」というのがあるといいのかなと思います。</p> <p>(村松委員) 大学生向けは最初にオンライン講座があります。座学という意味では同じです。</p> <p>(高橋委員) 一般向けの入門講座では、事前オンライン研修を「任意で受けてください」とありました。大学生向けはまずはオンラインで入ってもらおうということで体系化されたのではないのでしょうか。</p> <p>(高田部会長) もう少し研修体系が明確になるようにプロセスが知りたいですね。</p> <p>(事務局) 段階を追って、どこのステップかという位置関係ですよ。</p> <p>(国吉委員) 初開催の大学生限定森づくり塾は、「こういう研修で森づくりボランティアの若返りを図っている」ということですよ。写真が何の写真かがよく分かりません。左側は散策でラフな感じですが、右側は皆さんヘルメットをかぶっていて、プロが手入れしている感じがしてしまいそうです。これも研修の様子ですよ。 アクションなので、今回の講座から入って「こういう講座もある」という紹介をする意味では、右側の一番下の表で「こんなにバリエーションがあっ、プロっぽい人も参加でき</p>
--	--

	<p>る」と伝えられると思います。入り口が明確なのが一番いいです。</p>
(高橋委員)	<p>「初開催 大学生限定」を、「大学生限定森づくりボランティア入門講座（横浜市の森づくり塾）」としてもいいかもしれません。あるいは、「森づくりボランティア入門講座」というのが分かるように後ろに記載したらいいと思います。内容は同じです。</p>
(国吉委員)	<p>この「大学生」というのはインパクトがあると思います。「限定」を赤文字にしてみるとか、違う形にしてもいいのかなと思います。初めてとか入門っぽい雰囲気を出したほうがいいのかなと思います。</p>
(高田部会長)	<p>この森づくり研修のリストは分かるのですが、この研修の位置付けはどこが所管になるのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>環境活動支援センターです。</p>
(国吉委員)	<p>記載されている「お問合せ」「申込み」まで読んだら、多分、「申し込みたいな」と思うのではないのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>左側の「森づくりボランティアとは」のところに配置を寄せたほうがいいのかもかもしれません。</p>
(高田部会長)	<p>そうですね。どこの説明なのかということです。</p>
(事務局)	<p>初めての見る方のために「森づくりボランティアとは」を左に配置しています。ですが、全体の構成で、「森づくりボランティアとはこういう形で、研修としてもこういうメニューがある」と説明する流れでしょうか。レイアウトを変えて一連の説明になる構成を組み替えてみようと思います。</p>
(村松委員)	<p>表ですが、研修のテーマの列が一番左にあって、その右側4列が内容ですよね。線で区切るか色を変えないと伝わりにくいです。</p>
(事務局)	<p>オリジナルは、本市ホームページに既にあるものを使っています。環境活動支援センターにも確認をします。</p>
(村松委員)	<p>表の一番右側の1列は「更にフォローアップ研修はこういうものがある」という内容です。列は三つに分かれないといけないのではないかと思います。</p>
(事務局)	<p>「研修テーマを全て出すとこんなにたくさんある」ということを示すことにはなりますが、やや細かいかもしれません。むしろこのぐらい載せたほうが、市民からは「面白いことをやっている」と思ってもらえるのでしょうか。</p>
(高田部会長)	<p>それぞれに関心がある人には、「色々な入り口がある」と</p>

	<p>思ってもらえるのではないでしょうか。</p>
(村松委員)	<p>字は小さくなりますね。</p>
(国吉委員)	<p>一番右側のフォローアップ研修も必要か、よく分かりません。道具の使い方や作業実習、ロープワークなどを日比谷公園でやると大勢集まります。実際に見ると非常にインパクトが強いみたいです。「こうやって管理しているのだな」というのを見るのは非常に興味があります。道具の使い方や手入れは、普段の生活の中でもいきます。近くの公園でも、それができるようになったら活用してみようと思うかもしれません。</p> <p>みどり税で、ボランティアだけにお金を使っているような印象があります。税金を市民の森の地主にも使っていることが抜けていると、最初に見たとき、一部の団体の人にだけ使っている印象を与えてしまいます。言葉で補足を入れればよいと思います。</p>
(高田部会長)	<p>研修テーマで、同じベーシックでも道具の使い方や作業実習は分類や色を分け、もう少し見やすくなっていただけだと思います。今回の講座と表が連携するところの色を変えたらどうですか。この表の中にはボランティア入門講座は入っていないので別の研修ということですよ。</p>
(村松委員)	<p>皆さんの声には、大学生のアンケートが全部入っている感じですが。入門講座に参加した若い方で「気候変動に対して自分も何かしなければ」という意見を持っている方が2人もいました。それは入りたいです。私たちの世代は20代の頃、気候変動のためなどは考えませんでした。今は、自分が楽しいとか何かやりたいというだけでなく、気候変動を考える人が出てきたのだなというのが印象的でした。</p>
(事務局)	<p>加筆します。</p>
(高橋委員)	<p>二次元バーコードの下の※「個別にボランティア登録が必要」のところは少し目に付くようにしたほうがいいのではないのでしょうか。</p>
(高田部会長)	<p>この辺も先ほどからの「流れ」に関連します。ボランティア登録した上での研修です。それを強調しないと、「これだけを申し込める」と思います。</p>
(事務局)	<p>この辺りも目立つ配置を検討します。</p>
(高橋委員)	<p>ボランティアに登録した人が全てこの講座を受けるわけではありません。活動団体の中には、森づくりボランティアに登録していない人もいます。団体から派遣されてこの講座だけ受ける人もいます。特に団体のスキルアップ研修のようなものは個別に受けて、「実践に生かしてみよう」という感じだと思います。</p>

	<p>(高田部会長) 個人登録なのか、団体に所属しての登録なのかというところですね。</p>
	<p>(高橋委員) 細かく説明する必要はないと思いますが。一般で初めて入門講座を受ける場合には、個人としてのボランティア登録をしてくださいということです。これを見ていくと、中には団体向けの研修もあるので、分かると思いますが。</p>
	<p>(高田部会長) その辺りが何となく複雑なのでわかりにくいです。市で作っている、分かりやすい図があります。</p>
	<p>(事務局) 基本的に団体から参加する人は、団体に案内されます。この『アクション』をきっかけに「うちの団体でやっているのですか」という話があると思います。 アクションは団体に加わっていないような方が見る広報誌だと思いますので、「受講するにはボランティア登録が必要」と書いてあるほうがシンプルに伝わると思います。</p>
	<p>(高橋委員) 今回、一般の方を対象にした広報誌です。あまり細かく言うてしまうのもよくありません。個人が全部の研修を必ず受けるわけではありません。意外と、案内が来て、関心があるもののみ参加させてもらうということもありますので。</p>
	<p>(事務局) 全体の流れの中で、登録するステップもあって、その後に研修もあり、フォローアップまでやります。流れはステップの中で整理することでいいかなと思います。興味を持った方は二次元コードなどで問合せしてもらうことまで、読んだ方が漠然とつかめればと思います。このような流れでよろしいのであれば、整理してまとめていきます。</p>
	<p>(高橋委員) あまり説明が複雑になっても分からなくなってしまうかもしれません。</p>
	<p>(高田部会長) 踏み込み過ぎると分からなくなってしまうます。</p>
	<p>(事務局) 手に取った感覚ですんなり理解できるかどうかで確認してもらえればいいと思います。</p>
	<p>(国吉委員) Action 4号の「市民の森」も一緒に見てもらうようにすると、「色々なパターンで森を守っている。自分も参加できるのだな」と分かります。参考に使えるし、散策のような形もあると伝えられると思います。 リンクできるようにして、「アクションも見てください」とすると全体がわかるかもしれません。</p>
	<p>(事務局) 二次元コードを入れておく感じでしょうか。</p>
	<p>(国吉委員) そうですね。誌面はなかなか手にはいらないので、Webで見てもらえればと思います。</p>

	<p>どうしても1号ずつしか見ませんので、「これだけなのかな」と思ってしまいがちです。全体像が見えて分かりやすいものがあるといいのかなと思います。</p>
(村松委員)	<p>最初の「横浜の森を感じる」で、「市民に開かれた場所であるために」とあります。「であるために」というのは何となくしっくり来ません。「市民に開かれた場所として」を「市民に開かれた場所を目指して」としたらどうでしょうか。実際は開かれた場所にするためにやっているのでしょうか。そこまで強く言い切れるかどうか分かりません。</p>
(高田部会長)	<p>横浜市の文書にあったような気がします。</p>
(事務局)	<p>行政は確かに「市民に開かれた」と使っていますが、「市民が関われる」や「活動できる」という意味です。それらをまとめて「開かれた」という言葉を使っています。 これはないほうがいい気がします。「横浜の愛護会や森づくりボランティアをはじめ」のほうが自然です。</p>
(高田部会長)	<p>この節を全部取ってしまってもいいです。</p>
(事務局)	<p>すっきりします。</p>
(高田部会長)	<p>表紙のキャッチコピーはどうしますか。</p>
(高橋委員)	<p>「みどりの助っ人 森づくりボランティア」はどうでしょうか。森の助っ人よりも「みどり」でいいのではないかと思います。</p>
(高田部会長)	<p>ただの「みどり」ではないですからね。皆様もそれでいいですか。</p>
(国吉委員)	<p>表紙に若い大学生が写っているので、助っ人になってくれそうな「次世代」という言葉も含まれている印象があります。</p>
(事務局)	<p>文字を入れて、写真とセットで見た段階でまた確認してください。</p>
(高田部会長)	<p>では、議題1についてはこれで終了します。</p>
(事務局)	<p>今日の意見を踏まえてレイアウトを調整し、デザイン業者に出します。校了は12月下旬くらいを予定しているのでできたものをメールで確認してもらいます。印刷が1月で発行が2月で進めていきます。</p>
(高田部会長)	<p>わかりました。続いて、次第2について事務局から説明をお願いします。</p>
	<p>(事務局説明)</p>

	<p>(高田部会長) ありがとうございます。Action 9 号のパターンについて案 1 はいかがでしょうか。</p> <p>(村松委員) ページ数をどうするかと中身をどうするかということですね。</p> <p>(高田部会長) 中身は後ほど検討するとして、今までと同じ 4 ページにするか、増刊号の 6 ページにするかということです。</p> <p>(国吉委員) 増刷すると少し大変そうですね。</p> <p>(村松委員) 自由テーマが多くなりそうですね。</p> <p>(高橋委員) Action は 9 号が最後ですか。</p> <p>(事務局) はい。</p> <p>(高橋委員) 先日の本会の際に、座長が「水循環について Action の中で取り上げてはどうか」とおっしゃっていました。そういう取材先があるとやりやすいです。綱島地域の地域緑のまちづくりのように雨水貯留タンクや、地下に水を浸透させるために竹を埋めて、地下水の状態をよくしていくインフラなどはやりやすいのですが。</p> <p>(高田部会長) 新しい要素も入れてということですよ。</p> <p>(国吉委員) 次につなげる意味では、SDGs 関係も今とても注目されています。みどりアップでどう捉えるかというような壮大なテーマも考えればいけるかなと思います。横浜のシンボルである海をきれいにしていくためには、川や、日々の生活の水道といったところに広くつながっているということで、環境全体を見るのも面白いかもしれません。そこを少し膨らませてもいいと思います。座談会のような形でもいいし、若い人たちの取組を探して見てみるといいかなと思います。</p> <p>(高田部会長) もう少し未来に向けた新しい課題の提示としても、今までの柱にこだわらない内容ということです。</p> <p>(高橋委員) みどりアップの柱とも関係する水循環ですので、こだわるのも大事です。</p> <p>(高田部会長) そうですが、もう少し新しい視点もいいですね。</p> <p>(高橋委員) 今回の広報誌自体、市民にアクションを起こしてもらうのが趣旨ですから市民インタビューや座談会で大丈夫でしょうか。市民に関心を持ってもらえるようなテーマでないと難しいです。自分たちもそういうことを機に考えながら行動してみようとか、まさしく SDGs をどう実践し、森やみどりの育成にどう対応していくかを考え、行動するきっかけにな</p>
--	--

ってほしいという話ですよ。

(国吉委員) 3つの柱がベースになったうえでの次のアクションという
ようなことです。まだ何も案はありませんが、自由テーマの
ところで実際に何かあるかもしれません。森づくりや農業に
携わるや花壇づくりで地域の花や緑をきれいにするベース
のところから更に踏み込んでもう1つ記事を掲載するとい
う形です。

(高橋委員) 「自分はあまりこういう活動はできないけれど払っている
みどり税が有効に使われている」ということが伝わればいい
かもしれません。

(国吉委員) 若い方たちの取組の中で、家の近くの早淵川をきれいにす
るものがあります。川の周りなので、雑草が生えているとこ
ろをきれいにして、市民が集まる場所になっています。30代、
40代の方たちに60代ぐらいの方も協力しながら活動を始め
ています。そういう活動を探せば、若い人たちのつながり
があるかもしれません。具体的に税金は使っていませんが、そ
ういう活動を知らせていくのもいいかもしれません。

(高田部会長) まずはこのページを増やしますか。今までどおりにし
ますか。

今までの私たちの委員会を座談会風にして、意見を交わ
した内容を載せるのも一案でしょうし。新たな未来につい
ての課題を入れ込んでの話もいいというところで少しずつ
意見が出てきました。

(国吉委員) 発行はいつになりますか。

(事務局) まだ先になります。本会やほかの部会も継続している中で
設定しようかと思えます。例年だと夏と秋口みたいなところ
ですが、その間を取るとか、12月辺りを目指すスケジュール
だと思います。

(国吉委員) 半年から1年くらいはかけられますね。

(事務局) 9号の軸である緑化を何にするか、取材先によっても発行時
期は変わります。ただ、かけられる時間はいつもよりは長く取
れると思います。

また、増ページすることで、委員にあまり負担をかけてはい
けないので、事務局も工夫して、今までどおりメールのやり取
りも含めて効率的に進めてもらえればと思います。今まで取材
したものから緑の新しい可能性を感じたことや、新しい担い手
のことなど、これまでの Action を手元に置きながら「森の現
場を回ったけれど、どうだった」という話でもかなりボリュー
ムがあると思います。

一歩先を考えると、みどりアップに絡めて副次的な効果を
伝えるというテーマもあります。行政はどうしても実績とし
て「何ヘクタール森を守った」「年間ボランティアを何件行っ

	<p>た」ということがあります。その効果がどうだったかについて市民の意見があると、「やはりやってよかった」「効果があった」と再認識させられることがよくあります。市民委員の皆さんにはそういった視点からみどりの可能性や効果について話し合ってもらい、市民の緑に関わる声を引き出せばよいと思います。</p>
(高田部会長)	<p>毎年 Action を 2 号ずつ出してきました。柱のサイクルとしてはいかがでしょうか。</p>
(事務局)	<p>9 号で 3 本の柱を 3 回ずつ偏りなく回すことになります。今、画面で映していますが、森から始まり、9 号が緑化です。取材のスケジュールで若干、順番は変わっていますが、3 つの柱を同じ回数取材するという法則は変わっていません。</p> <p>緑化はオーソドックスなテーマとして、掲載すると思います。それとは別に、座談会的な方法というのが事務局からの提案です。どちらかにしてしまうパターンもあるかもしれませんが、でもバランスを取るのであればみどりについて語っていただくのもいいと思います。</p>
(望月委員)	<p>緑化を通常のパターンに入れることは、基本的には皆さん了承すると思います。増刷するとなると、広報・見える化部会に市民として参加し、その参加者で市民委員座談会や委員の意見をまとめたテーマを追加でつくるかどうかですよね。</p> <p>事務局としてぜひ、市民委員の意見をまとめたテーマに基づくものをつくって、増刷版でいきたいです。</p>
(高田部会長)	<p>個人的には増刷版に賛成です。ただ、やり切れるかどうかの問題があります。やるからにはやはりいいものを作りたいです。どのようにできるかです。</p>
(事務局)	<p>参考ですが、『Action』の前身である『みどりアップQ』の最終号では、それぞれの市民委員が理事に質問する形で「こうしていきたい」という話をしています。裏面にも「こうしてほしい」といったものを提言で少し入れています。</p>
(高橋委員)	<p>市民委員だけの話になってしまうと、配布されたときに一般の方が読んでくれるかわかりません。上手い構成の仕方をする必要があるとは思いますが。</p>
(高田部会長)	<p>せっかく見開きのできるのであれば、柱 1 から 3 を通して説明して「みどりアップ計画でこんなことに取組んでいる」というのが、それこそ見える化できたらいいと思います。柱 1 から 3 で、例えば市民の森の全体像でどこに行ったらいいのか、農地がどこにあるのか、まとめて全て載っているものがなかなかありません。リスト的にして、それぞれのテーマで現場の写真をピックアップして載せてみたらと思います。</p>
(高橋委員)	<p>今までの柱 1 から 3 をうまく総合的に扱くと、みんな歓迎するでしょう。</p>

	<p>(高田部会長) そうですね。目指すところはみどりアップ全体という感じ です。個人的にも、それを見て「行けるかな」とか「やれる かな」と思います。</p> <p>(国吉委員) ガイドマップ的に「これを見て出かける」的なものです。</p> <p>(事務局) アクションメニューという感じですか。</p> <p>(村松委員) Action なのだから、アクションらしい最後がいいと思 います。</p> <p>(望月委員) 理事に話を聞くという案が出ましたが、理事は非常に細か いところまで知っているの、行司役のようにして、全体と してのまとめで集約してくれていました。前回の最後のとこ ろの話は非常にまとまっていた。 市民だけの座談会になってしまうと、それぞれの関心だけ でテーマが散逸してまとまりません。仕切りのような形で理 事が間に入って、非常にまとまった形で広報誌に載せること ができました。</p> <p>(事務局) 前回と同じだとWebに載っているの、また繰り返しに 見えてしまうかもしれない懸念があります。</p> <p>(望月委員) 前回は場所を決めて実際に出かけました。皆でずっと議論 して、その後に集まりました。それぞれの部会に所属した経 験を踏まえて話をしていました。それはそれでよかったです。 そうすると、皆さんに行っていただかなければいけないで すが、別に行くことを強制しているわけではないです。</p> <p>(高田部会長) 事務局でそういうアイデアはありますか。</p> <p>(事務局) 方向性が増刷となり、皆さんの自由テーマに関して骨格が 決まってくれば、「こういうのはどうか」と提案できるかと 思っています。 緑化のみになると、これまでと同様の取材になると思いま すが、それ以外にプラスであればまた提案できます。事務局 にはたたき台の案しかないの、具体的な方向性が決まれば 更に案を出していくことは可能です。</p> <p>(村松委員) 2回分の取材の負担と思えば増刷でいいのではないでしょ うか。</p> <p>(国吉委員) やると決まればやるでしょう。</p> <p>(高橋委員) 今回の広報誌が『Action』だから、アクションを起こして もらうような自由テーマにしてもいいかもしれませんね。市 民に関心を持ってもらい、「行ってみよう」とか、「自分も参 加してみよう」と思えるような。</p>
--	--

	<p>(望月委員) 前回のテーマが「みどりアップの始まりと未来」でした。今回のテーマが「アクションなので」みどりアップが始まってどういうアクションが行われてきたかを議論するのもいいと思います。</p> <p>(村松委員) 前はQだったからクエスチョンですね。</p> <p>(高田部会長) クエスチョンに答えてきて、今度は市民のみどりアップの行動をサポートしていきましょうということで「Action」でした。 どれだけアクションできたかを表現するような誌面ということですね。</p> <p>(望月委員) 同時に、「こういうアクションしてほしい」というのが市民委員の皆さんからあるべきだと思います。</p> <p>(高田部会長) 最後にそれを入れて。</p> <p>(望月委員) 非常によかったと思っています。広報・見える化部会の皆さんで行って現地を見て写真を撮りました。その後、理事にみどりアップの始まりなど、色々話を聞きました。</p> <p>(高田部会長) 会議だけでなく、長い時間で現場も一緒にしてということはいいいですね。では、増刷の方向でいいですか。</p> <p>(各委員) はい。</p> <p>(事務局) では、案2ということで。増刷のところは事務局でもう少し協議して、深度化した案を検討します。</p> <p>(高橋委員) 意外と取材先などの中で、「このモデルのようにやるといいのではないか」というのがあります。最初の取材先の鴨居原市民の森のように、市民の森の入り口が二つあって、一つは公園になっていました。公園の中にトイレがあったり、広場があったりします。市民の森だと色々制約がありますが、公園と一緒にいると市民が入りやりやすいです。調査部会の時に行った今井・境木市民の森は、隣に公園があるから活動のときに使えます。 なおかつ、鴨居原は耕作していない農地を借りて農体験をしています。農園付公園のようになっていました。公園と森、森と農など一緒になると、もう少し色々やりやすいと思います。そう考えると柱1、2、3は総合的にやったほうが、色々な市民が参加し、みどりアップについて理解していただけたらと思います。そういうことをここで伝えられるといいと思います。</p> <p>(高田部会長) 私が活動を始めたのが10年前です。これまでいろいろと行政に相談に伺ったりして、この会議で理事に会ったら「お久しぶり」と言われました。「あのとき」と言われて、私は</p>
--	--

	<p>全然覚えていませんでした。実際に話したことはないのですが、しっかりと見てくれていました。</p> <p>横浜市の季報が環境創造局の号の時、理事が歴史から何かから全部書いている文章がありました。こんなに長い間緑行政に関わっていて、今に至っていることが分かりました。行政だと、異動があつて長く携わることがなかなか難しいですが、長らくつながってくれていることは重要です。今でも話を聞くことができるでしょうか。</p>
(事務局)	できるように工夫します。
(望月委員)	高橋委員が言ったことももう少し議論したらと思います。市民委員として意見をまとめたために、少し掘り下げて、説明があつた上でできればいいのではないですか。理事は非常に詳しいです。港北ニュータウンがそもそもどんなふうにしてできたかという話も聞きました。
(事務局)	今日の意見を踏まえて、理事に話を伺うということを骨格にし、構成を考えてみます。
(高田部会長)	表に出てこないエビデンスもきっとあると思うので、是非お話を伺いたいです。 これが決まれば本日は大丈夫ですか。
(事務局)	<p>9号の取材先をどこにするかは次の部会でも間に合います。今日は方向性で「こういうテーマがある」とか「こういうものを取材に行きたい」というのがあればと思います。意見が出れば、そこにフォーカスした形でやりたいと思います。</p> <p>テーマ案1なら、もう少しストーリーがありそうな保育園や幼稚園を事業課に確認をします。次回「こういったところはどうか」と提案できればと思います。</p> <p>テーマ案2は広報・見える化部会や記事で色々取り上げているので、事前に事業課に「こういうところがいいのではないか」と聞けて、入れました。</p> <p>テーマ案3はまだそこまで深度化はしていません。「こういうものもある」というぐらいで例を出しています。今日、1、2、3のものが皆さんでできるのであれば、次にもう少し深く調べたものを渡せるかと思っています。まだあまり決められないということであれば次回でも間に合います。</p>
(国吉委員)	これまで、街路樹にあまり触れていませんでした。地域で暮らしていると、生活の中で「街路樹はどうなっているのだろう」と気にしている人がけっこう多いのかなと思います。環境に応じた次世代のサクラについてももう少し知りたいです。
(高田部会長)	剪定の仕方も、みどり税が使えるところに限られてはいます。当たり前景色になってしまいましたが、そこに至るまでにはかなり力を尽くしてくれています。記録を残しながらや

っています。調査部会の際に、地図も色々出てきました。ここに何の木がどういうふうにあるかということで、ああいうことも全然知りませんでした。

この前も本会議の際に質問がありましたが、街路樹の手入れができていないという話がありました。地域の人たちとみどりの取組を絡めながら活動し、アクションを起こしてもらえたら、街路樹についても何か踏み込めるのではないかと個人的には思いました。

(国吉委員) 公園の中の木の管理も手付かずでいました。木陰になっていて植物が育たないとか、小さなことを思っている方もいるかもしれません。公園の中が暗くて、防犯上、子供を通らせたくないと思っている方は個々にはいると思います。街路樹の管理がどんなふうに行われているか、景観の街路樹も紹介するといいかもしれません。

(村松委員) いきいき街路樹事業の紹介がありました。私の家の前の道の街路樹はイチョウですが、剪定がゴツゴツしていたり枯れた木があったりします。何百メートルか先は「いきいき街路樹事業」と看板を立ててきれいに剪定しています。こちら側の方が人通りも多いし街路樹は通るたびに目にするものですから事業をもう少し伸ばしてほしいと思います。

先日メールでハマロードサポーターについて書きました。国交省で「アダプト制度」といって、地域団体が周りの、主に道路ですが、花壇や公園でも河川でも管理をボランティアで請け負っています。器具はおそらくくれるのだと思います。国交省のその制度を横浜市ではハマロードサポーターとしてやっているようです。この前意見を言っていた方も、ハマロードサポーターになれば街路樹の管理ができるのではないかと思いました。

(高田部会長) やってから色々声をかけてくれて、「ハマロードありますよ」と聞いて、ビニール袋やホウキなどかなり支援してもらいました。報告書と次年度の計画書を出さないといけないぐらいです。

自分たちでゴミ袋やホウキをそろえるのは大変です。そういうのがあることを皆様に知らせています。

(村松委員) 下の植込みなどは、市民で出来ると思います。多分、管轄が違うと思いますが。

(事務局) 確かに、いきいき街路樹事業は剪定前の姿を知らないできれいな姿を見てしまうと「木を切って何をやっているのだ」と言われるところがあります。そういう手入れを見てもらうのは、市民の新たな発見になっていきます。Actionの趣旨からすると、まさに「見つけてみよう」に合致するかなと思います。

その先の部分はまだ所管が分かれています。みどりアップ計画外ですが、ハマロードサポーターの話につながってきています。遠巻きにみどりアップにつながるころはあ

	<p>るとは思いますが、あまりハマロードに偏ってしまうと、みどりアップではなくなってしまうと思います。例えば、行政の担当者に「街路樹はこういう計画で剪定をしている」と聞いて、プラスハマロードもあるという構成であれば、バランスとしては保てるかと思えます。</p>
(高橋委員)	<p>ハマロードの団体とは関係なく、地域の愛護会的なものがハマロードにも対応しているということですか。</p>
(事務局)	<p>もともと公園愛護会が先行している制度で、普段の見回りや清掃をしていました。さらに、街路樹もみどりの空間ということで、公園愛護会が母体となってやってくれているという地域もありますし、単体でという地域もあるのかもしれませんが。やはり地域の団体が中心となってやっていることは間違いのないと思います。</p>
(高橋委員)	<p>ハマロードはみどりアップ計画事業とは別だけれども、公園愛護会の方たちがハマロードにも関わっていれば書きやすいです。</p>
(事務局)	<p>そうですね。そういった取材先があるか分かりませんが、街路樹をやっている路線があって、活動している市民が公園でもみどりアップ事業の花壇づくりをやっているというつながりがあると、点が線に、線が面になって市民活動がつながっているという見方もできます。行政側は行政側できちんと選定し、市民が更に質を高める取組をしている現場があれば、取材もしやすく、いい記事になると思います。</p>
(高橋委員)	<p>そうですね。愛護会活動をしている人も「そういうものにも対応してみよう」という一歩になるかもしれません。</p>
(事務局)	<p>今の街路樹は1つのテーマとして掘り下げて、そういう広がりのあるものができるか、内部で確認できればと思います。</p>
(高橋委員)	<p>テーマ案1の中では、保育園や小学校でやっているのは近所の方が多いですか。できれば、市民が参加する活動のほうがActionとしてはいいと思います。「私もやってみよう」につながればいいですね。小学校、中学校、幼稚園というのは大事なことです。PTAがやってもそれは親の負担になっています。サポートするような取組があるのならいいですが、そうでないなら難しいかもしれません。</p>
(村松委員)	<p>地域みんなで協力してやるものがすごくいいと思います。調査部会では地域緑のまちづくりをたくさん見っていますが、Actionは地域やまちづくりの取組はあまり取り上げていないので、地域がいいかなと思います。</p>
(事務局)	<p>わかりました。</p>

	<p>(高橋委員) 街路樹ではないですが、各区の取組の中で、色々面白いテーマでやっている団体があるのであれば面白いかもしれません。多くの市民に参加してもらい、場合によっては参加したいと思ってもらうことが一番いいです。</p> <p>(事務局) 街路樹からつながるみどりのまちづくりの現場もあればということで、例えば地域の方が管理してコミュニティ形成につながっているものがあればいいですが。</p> <p>(高田部会長) もしあれば一番いいです。今まで取材していないところなので、いい題材になるかもしれません。難しいとなったらやはり1、2、3でいいのかなと思います。</p> <p>(高田部会長) 調査部会で視察した幼稚園も地域の農家からヒントをいただくなど支援してもらっているようでしたので、どこかで似たような話があれば面白いかもしれません。新しい取り組みになるかもしれないと思います。</p> <p>(事務局) Action の趣旨からいうとまさにそのとおりです。そういう趣旨からの取材先も含めて中で検討していきます。</p> <p>(高田部会長) 望月委員、まとめをお願いします。</p> <p>(望月委員) 特に緑化のところで、街路樹の剪定作業はみどり税が使えます。もっと言うと、個人が申請して、道路に面した木をきれいに剪定するところにも実を言うとみどり税は使えます。</p> <p>(事務局) 大きい木や歴史的な由来があるケースですね。</p> <p>(望月委員) 地域の方たちでみどりの税金の話になると、実際は自宅の街路樹の管理から何から含めて自分たちでしていると聞きます。私の住んでいるところでも定期的な掃除などしています。地域のみんなで集まってハサミを持ち寄って刈ったりしています。みどりのまちづくりというのはあらゆるところで当然、用意されていて、地域の皆さんが一生懸命やっています。</p> <p>(高橋委員) 町内会総出で掃除をしています。</p> <p>(望月委員) 先週、私も参加しましたが、公園と道路と一緒にでした。うちのところは四つぐらい大きな公園があります。それぞれ地域に委ねられて管理されています。街路樹も含めて全体を掃除して、けっこう大変です。 今は地域の取組が昔よりももっと先に進んでいるので、実施している地域はあると思います。</p> <p>(高田部会長) 枯れ枝を切るのは大変だし、1人でできなくても、近隣の人たちと一体となって皆でやることで、お互いのコミュニケーションも出てきます。これをきっかけにということは重要なポイントでもあります。調べてもらいたいと思います。</p>
--	---

	<p>(事務局) わかりました。</p> <p>(高田部会長) では、事務局にお返しします。</p> <p>(事務局) ご議論ありがとうございました。事務局からは、今後のスケジュールということで簡単に説明します。 Action 8 号は、今日いただいた意見を取りまとめて、デザイン会社と調整して、出来上がったデータを改めてお送りします。校了を 12 月下旬目標に、印刷 1 月、発行 2 月で進めます。 また、本会の日程を調整中ですが、2 月中に開催予定です。部会も調整していますが、決まり次第正式に連絡します。 2023 年度の Action については、9 号増刊号という形で進めます。テーマ等を含めて事務局で整理し、皆様に提示します。</p> <p>(高田部会長) それでは、今日の会議はここまでです。ありがとうございました。</p> <p>(一同) ありがとうございました。</p>
<p>資料 ・ 特記事項</p>	<p>次第 資料 1 Yokohama みどりアップ Action 8 号原稿案</p>